

## ありがとうをつないで40年

~"小さな灯"運動40年のあゆみ~





#### **CONTENTS**

- 2 "小さな灯"運動の「すずらんマーク」
- 3 "小さな灯"運動への想い
- 5 "小さな灯"運動の始まり
- 7 子ども支援のあゆみ
- 12 障がい者支援・御堂筋バザーのあゆみ
- 20 災害被災地支援のあゆみ
- 24 従業員のボランティア活動支援
- 29 かつての活動
- 31 年表 一活動の軌跡―
- 33 ありがとうをつないで40年
- 37 "小さな灯"運動のこれからへ
- 38 編集後記

写真(左上から順に)

チャリティコンサート募金、点字カレンダー、ソマリア救援募金 ゲートボール大会旗、ベトナムのこどもたちに絵本を、2つの被災地への募金 ふれあいバザー再開、大阪ガスカレンダー、コロナ緊急支援物資募集



すずらん



火屋(ほや)



#### "小さな灯"運動の「すずらんマーク」

すすらんマーク

ロゴマークには、すずらんの花が"小さな灯"運動の象徴として描かれています。

すずらんの花の一つひとつは小さいですが、いっぱいの花をつけるということが、小さな灯がやがて大きな灯になるようにとの願いに相応しいという意味がありました。

また、すずらんの花の形が、大阪ガスのガス事業の始まりである「ガス灯が普及し始めた頃に使われていた"ガスの炎を覆っていた火屋(ほや)"」に似ていることも大阪ガスの活動として象徴の意味がありました。

さらに、"小さな灯"運動が正式に始まる1981年に先駆けて、1977年からは 大阪ガスグループの福祉奉仕活動を紹介する「小さな"灯"から」を発行し、 1977年3月に地域社会に貢献する奉仕活動に対して大阪ガスグループの個 人・団体を対象にした表彰制度として「すずらん賞」が創設されていたことも、す ずらんが"小さな灯"運動を象徴する花として選ばれることにつながりました。 "小さな灯"運動のロゴマークにはそんなすずらんの花に象徴されるように、一 つひとつ、一人ひとりの小さな取り組みが、継続し、同じ志を持つ人が増えてい くことで大きな灯となって地域社会の問題を解決していく一助となればという 想いを表しています。

#### "小さな灯"運動への想い





"小さな灯"運動 代表幹事 理事 総務部長 **中窪 和弘** 

"小さな灯"運動が40周年を迎えましたこと、関係者の皆様に 御礼申し上げます。

"小さな灯"運動が40年間続いてきた理由は、まず1つ目として 地域社会に貢献する会社であるということと、そのことがよき 企業風土でもあり、従業員それぞれの風土・マインドにもなって いるということが挙げられると思います。「地域社会の発展なく して会社の発展なし」ということを会社も従業員もわかってい て、地域社会の問題への関心が高く、「少しでも地域社会のお役 にたちたい」という想いが根付いているのだと思います。

2つ目には会社の歴代のトップが社会貢献に関する姿勢を明確に示してこられたことが挙げられます。例えば領木社長時代には「よき企業人である前に、よき社会人であれ」ということで、 "自らの行動に責任を持ち、社会に貢献することを惜しまない人"になることが従業員の明確な指針として示されました。

3つ目として実際の活動を担っている方々を中心にして多くの方々の協力があることが大きいと思います。Daigasグループだけでなく、工事会社やサービスチェーンの方々からも"小さな灯"運動に対して様々な支援をいただいており、この40周年という機会に感謝申し上げたいと思います。こういう多くの方々の想いが、"小さな灯"運動が40年続いたことの大きな源泉です。

"小さな灯"運動は正解がない活動で、収入である募金等につ

いても、対象である社会貢献活動に関しても創意工夫しながら 続けることが重要です。これまで長きにわたり地域社会のニー ズをとらえながら活動してきた方々には改めて敬意を示したい と思います。現代は地域社会のニーズも多様化して、より効果 的な活動を行うことがますます難しくなっています。そんな時 代だからこそ"小さな灯"運動の目的に立ち返って判断していく ことが大切です。一方で、社会貢献活動も多様化していますの で、自分が興味あるものを「まずはやってみる」ということが重 要で、この点もDaigasグループのよき企業風土の一つです。 事務局としても価値観が多様化している現代に、どういう活動 がより効果的で、どういう社会貢献活動を支援することが"小 さな灯"運動に相応しいのかを見極め、求心力を発揮して Daigasグループー体感醸成の柱の一つとなれるように活動 を担っていきたいと思います。さらに中期経営計画が目指す 様々なステークホルダーと共創して社会課題を解決していくと いう考え方は"小さな灯"運動と方向性が同じものです。会社の 業務の中でも会社として行っていくものと"小さな灯"運動とし て行うことが相応しいものが今後より多く出てくると思いま す。"小さな灯"運動では過去にとらわれず、アンテナを張って 活動を続けていくこと、より効果的に見直し続けていくことが 大切だと思っています。



### "小さな灯"運動 元事務局長 江本 雅朗

2011年3月11日の東日本大震災当日に異動発令を受け、4月 1日に赴任して真っ先に「こんな時こそ従業員の被災地への熱 い想いを形にする」と考え、東日本大震災の被災者に"小さな 灯"運動で何ができるのかを熟考し施策を実行しました。まず 義援金・支援金を募集しました。「未曽有の大災害被災者に何か したい」というグループ従業員の想いから、すぐに3300万円 もの募金が集まりました。次は従業員が現地に赴く被災地復興 ボランティア派遣でした。大阪ボランティア協会や関西有志企 業の社会貢献担当者たちとパイロット版ボランティアバスで自 ら5月初旬には仙台へ向いました。五感で体験した被災地の様 子はテレビの画面越しと違い、多くの従業員にもこのリアルな 体験をしてほしいと思いました。一方で片道14時間の行程は 体力的に大丈夫か、現地の活動に危険はないか等の懸念を実 体験で払拭し、その後従業員に次々参加してもらえたことも嬉 しいことでした。さらに被災地でのボランティア等の復旧活動 資金のために、長年「1部300円」で協力いただいていたカレン ダー募金に"支援金100円"追加をお願いし、協力者の8割以 トに400円の募金に応えてもらえました。グループ従業員の 熱い想いをしっかり受け取り、感激したことを今でもよく覚え ています。

大阪ガスとして支援を行うからには、何が大切かを考え、クオリ



ティにこだわり、「"小さな灯"運動でなくても支援できる。役目が終わった」と自分が参加したうえで判断したものを見直しました。同時に新たな社会貢献の担い手としてソーシャル・デザイナーとの関係づくりを積極的に行いました。

今後の"小さな灯"運動に対しては、変化が激しい時代に「どの対象にどんな支援をしていくのか」、「従業員にいかに趣旨を伝えアクションにつなげてもらえるか」を示していかなくてはならないと感じています。私の想いは「できない理由ではなく、まず何ができるのかを考え実行していってほしい」ということです。



### "小さな灯"運動 元事務局 小山 寛子

1992年の"小さな灯"運動主催の手話講習がきっかけで手話 サークルに入りました。そこで感じたことは、「こんなに一生懸 命に生き生きと活動している人がいる」ということでした。今ま での自分中心の生活では知らないことが沢山あるということに 気付いたのです。それからサマーボランティアに参加して施設 や福祉作業所へ行き、今までと違う世界を知ったのでした。"小 さな灯"運動がなかったら一歩踏み出せていなかった...。そこ でできて間もないボランティア休業制度を利用して東京の知的 障がい者施設で1年間活動しました。活動してみて今まで自分 が知らなかった「一緒にいるだけでいいんだ」ということがわか りました。それまでは「何かしてあげたい」とか「何ができるのか な」とか思っていた自分がいたのですが、そう思わなくていい ということがわかりました。一緒にいるだけで楽しい、一緒にい ると安心できる、それは相手もそう感じていることだというこ とがわかったのです。そういうことを知ることができたことが うれしくなりました。

"小さな灯"運動がなかったら今の私は全く違う生活を送って



いたと思います。天職と思える今の自分を見つけることもなかった。大阪ガスには"小さな灯"運動が始まったころの想いをずっと持ち続けて活動をしていってほしいと思っています。あたりまえに人に優しい会社であり続けたら、会社は信頼されて発展すると思うからです。

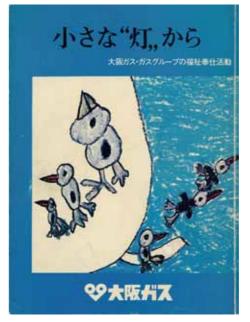


写真(左上から順に) ポートピア '81子ども招待、車いす市民全国大会、手づくり凧あげ大会 古書チャリティバザー、手作りクッキーボランティア、高齢者ゲートボール大会 御堂筋クリーン&グリーンキャンペーン、介護入門教室、チャリティコンサート



#### "小さな灯"運動の始まり

1970年代初頭から大阪ガスグループは地域協調活動として業務の延長で奉仕活動に取り組んでいたという歴史があ りました。1977年にはその奉仕活動を「小さな"灯"から」という冊子にまとめ、活動の促進と啓発を行ってきました。 また1977年に奉仕活動に関して大阪ガスグループの団体・個人を表彰する「すずらん賞」を創設。さらに1979年から は地域社会への永年にわたる地道な貢献に対して大阪ガス従業員を対象とした地域社会貢献表彰も始まりました。







#### "小さな灯"運動の始まりと「想い」

"小さな灯"運動は国際障害者年の1981年4月1日、大阪ガス グループの企業ボランティア活動として発足しました。

この"小さな灯"運動は、当時の大西正文大阪ガス副社長の「想 い」から始まっています。「何かいいことがしたいな」というその 想いを従業員のボランティア活動を支援するという形で実現化 できないかと古館晋(当時人事部)が考え、下谷昌久(当時社長 室)をリーダーとする検討会を経て1981年に"小さな灯"運動 事務局が発足することになりました。

"小さな灯"運動は、「従業員のボランティア活動を支援する」 「自発的な意志を大切に、やれることからやる」「永続性のある 活動をする」という3つを設立の趣旨としました。

従業員自らすすんで地域社会のために役立つ活動「ボランティ ア活動」を推進するということで「想い」は実現に向けて動き出 すことになったのです。







#### "小さな灯"運動のあゆみ

"小さな灯"運動の本部事務局は最初、大阪ガス本社営業本部 地域サービス室に置かれ、「行事活動」「啓発活動」「募金活動」 の3つの活動から始めることになりました。

それまでは、ボランティア活動に参加したい、興味があるとい う従業員がいても、どうやって何に参加したらいいのかわから ないといった声があり、そうした従業員それぞれの想いに応え たものでした。従業員に「参加の機会を提供」し、ボランティア に役立つ「セミナーや講習会を実施」し、そのための情報を発 信することこそが活動を積極的に支援することになるという 想いからでした。

また業務の一環としての活動ではなく、従業員が自発的な意 志で業務時間外で取り組む活動ということを明確にするため に、会社の予算ではなく「"小さな灯"基金」を設置して、"小さ な灯"運動への募金で従業員のボランティア活動が成り立つよ うにしました。

「地域から理解され、信頼され、親しまれる企業」を目指すとい う会社の想いと従業員の「地域社会のために役立ちたい」とい う想いが実現できる体制が整ったのです。



(写真上3枚)ともしびこども劇場 (中央左2枚)クリスマス児童養護施設訪問(中央右)あつまれ!ピッコロひろば (下3枚)ともしびこどもクッキング



#### 子ども支援のあゆみ

「子どもたちに夢と楽しさを」という想いを"小さな灯"運動では活動の最初からずっと持ち続けています。 1981年4月の"小さな灯"運動事務局発足から準備を続け、7月にボランティア希望調査を実施し、最初に実現した活動が「ポートピア'81への子ども招待」でした。外出機会の少ない児童養護施設の子どもたちに楽しい1日をプレゼントしたいという想いで、4施設100人の子どもたちを招待しました。初めての募集にもかかわらずボランティアに応募した従業員は193人にものぼりました。







#### ともしびこども劇場

児童養護施設の子どもたちに舞台芸術に親しみ、楽しんでもらおうと1987年から「ともしびこども劇場」第1回公演が始まり、その後1年に1回開催を続けています。

ともしびこども劇場誕生のきっかけは、施設へのクリスマス訪問で1時間程度の公演を行った際に子どもたちにもっと本格的な演劇を楽しんでもらいたいとの想いが湧きあがってきたからでした。

1985年に大阪市北区扇町の大阪ガス北支社跡地にオープンした本格的な演劇を行なうための劇場「扇町ミュージアムスクエア(OMS)」で、新たな劇団のもとキャストを全てオーディションで選ぶなど試行錯誤を経て、ついに1987年3月に第1回「ともしびこども劇場」オリジナルミュージカル「ネコが見た夢」を上演することができました。子どもたちに本格的な演劇を楽しんでほしいという想いを叶えることにつながりました。

その後、ともしびこども劇場は、会場を扇町ミュージアムスクエア(1987~90)、近鉄小劇場(1991~93)、近鉄劇場(1994、2001)、シアタードラマシティ(1995~99)、IMPホール(2000)、新神戸オリエンタル劇場(2002)、大阪市中央公会堂(2003~2005)を経て2006年に兵庫県のピッコロシアターに移して、コミュニケーションを大切にしながら優れた舞台芸術を創造し、子どもたちに歌と踊りを笑いにのせて楽しく心温まる「兵庫県立ピッコロ劇団」に協力をお願いして継続しています。今後も、ともしびこども劇場では子どもたちに、演劇を鑑賞する機会を提供することにより、少しでも子どもたちの情操教育の一助となるような活動を進めていきます。





大阪ガス OB **村井 秀行さん** 

コラム

発足時から関わってきた"小さな灯"運動。ともしびこども劇場は、"小さな灯"運動と私の舞台活動の趣旨が合致して、より多くの児童養護施設の子どもたちに楽しんでもらえたらと思い、企画を提案して立ち上げました。最初は手さぐりでしたが、"小さな灯"運動として相応しい内容にすべく、子どもたちの心に伝わる舞台をめざし、意義と目的を達成できるように尽力しました。第4回まで開催した扇町ミュージアムスクエアは当初、公演に難色を示されましたが、"小さな灯"運動事務局の星見さんから、こういう活動こそすべきと説得していただき、実現につながりました。今後は施設の子どもたちが生きていく力を身に付けるための支援ができれば、"小さな灯"運動としてさらに意義のある活動になると期待しています。





#### あつまれ!ピッコロひろば

"小さな灯"運動では2017年から、児童養護施設の子どもたちに演劇を見るだけでなく、コミュニケーション力を身に付けられるように演劇のワークショップを開催しました。子どもたちに自己表現力など自分たちで生きる力を身に付けていってほしいという想いからでした。「あつまれ!ピッコロひろば」の企画も、子どもたちのためにと常に考え続けてきたことで実現したものでした。



#### 子ども支援市民活動助成プログラム

"小さな灯"運動25周年および30周年の記念事業として、子ども支援市民活動助成プログラムを企画しました。25周年では「課題をもつ子どもたちに焦点をあてたプロジェクト」と「子どもたちの参加を促進するプロジェクト」について、また30周年では「困難な境遇などの課題をもっている子どもたちに関わるプロジェクト」に対して公募助成を大阪ボランティア協会の協力のもと実施しました。

私たちの暮らす地域には、さまざまな社会課題があります。"小 さな灯"運動だけではできないことを、地域で社会課題の解決 に取り組んでいる団体に託すことで、地域が、社会が少しでも 良くなることを願って行いました。

"小さな灯"運動事務局では、各助成団体が行うプロジェクトの遂行期間中に、全ての団体を訪問し、実際に様々な活動を見学して、今後の"小さな灯"運動が進めていく活動について考えるきっかけとなりました。助成事業は単発で行うよりも継続して行うことの大切さや、協働で事業を行う団体との関係性構築など、お互いの強みを活かして連携することの大切さを学びまし



た。社会課題をともに解決する活動を続けることが関係づくりには大切で、普段行っている"小さな灯"運動の日々の活動こそが改めて重要だということの再確認になりました。

今後の"小さな灯"運動の方向性は「継続した関係づくり」「資金 提供よりも場や機会の提供」の2点を活動の指針とすることで、 継続発展につなげていきます。





#### コラム

## 元大阪ボランティア協会職員 影浦 弘司さん

2006年の子ども助成では、同年に長男が生まれたこともあり、いっそうの思い入れで、市民活動団体と"小さな灯"運動の出会いをお手伝いしました。単にお金を仲介する事務係でなく、助成先と助成元の新しい関係をつむぐ役割が確認され、「協働事務局やね」と名称を提案されたとき、近畿で子どもたちを支援する多様な現場と、"小さな灯"運動という良き企業市民の間をコーディネートする意義が、一段と明確になったことを思い出します。翌年育休を取る後押しに、現在保育所に携わっているのも、Daigasさんとの楽しい協働の日々のおかげです。





#### ともしびこどもクッキング

2007年8月から、児童養護施設の子どもたちを料理教室に招待して「ともしびこどもクッキング」を実施しています。料理の基本や食の大切さを学びながら、五感で料理を楽しむことで子どもたちの自尊感情や将来の生きる力を育んでほしいという想いを大切にして現在も継続しています。

子どもたちが将来施設を卒業してからも役立つようにとの想いから、包丁の使い方やお米の研ぎ方、炊き方などの基本的な調理体験をプログラムに盛り込んでいます。料理メニューは、だしを使った和食やお弁当メニューを作るという内容ですが、これは2017年にユネスコ無形文化遺産に登録された和食の基本である関西のだし文化を学ぶ、小学生と親子向けの「和食だし体験講座」を取り入れたものです。

2019年、2020年にはこの活動の趣旨に賛同いただいた料理家の栗原心平さんが独自レシピを考案し、講師として協力いただきました。

2020年は新型コロナウイルスの影響で施設の子どもたちを招待できなくなりましたが、楽しみに待っている子どもたちを想って、YouTubeによる動画配信で「ともしびこどもクッキング」を実施しました。簡単に中止にしてしまうのではなく、どうにかして実現したいという想いを持って活動することが"小さな灯"運動に相応しいと考え、子どもたちからのアイデアメニューをもとにレシピを考案し、その作り方の動画を制作して

配信するなど新たな企画をして、それまでとは違う新しい形で開催しました。

コロナ対策の続く2021年は、施設の子どもたちから「設備の整った大阪ガスに行って料理をしたい」という要望を受けて、大阪ガスクッキングスクールと協力し、万全の感染予防措置を講じたうえで開催しました。また試食はせずお持ち帰りのお弁当メニューへ切り替えるなどの工夫をこらし、子どもたちの希望をかなえたいという想いで実現しました。

※大阪ガスは100年以上前から業務の一環として料理講習を行い、1992年からは子どもたちを対象にしたキッズクッキングを行ってきました。





#### コラム

#### 大阪ガスクッキングスクール マネジャー **吾妻 直子**

大阪ガスクッキングスクールは"小さな灯"運動の趣旨に 賛同して「ともしびこどもクッキング」だけでなく、七夕や クリスマスのボランティアクッキーづくりなどにも参加さ せていただいています。CSR活動の一環として考えてい る活動です。料理を教えたりサポートしたりするだけでな く、子どもたちに対して食の安全やアレルギーのことなど 毎回いろいろ工夫をしながら実施しています。施設の子ど もたちが自立でき、「生きる力」をつけられるように、様子 を見ながら子どもたち自身で作ることができるメニュー や作り方に変えてきています。そんな私たちの想いが子ど もたちに届いてくれたらいいなと思っています。この活動 を続けていくことで、子どもたちが大阪ガスクッキングス クールで一緒に料理をした体験を思い出して、「食」の大切 さや料理のことに想いを寄せてもらえたらと思います。





ほむテン



#### ほむテンの誕生

大阪ガス創業110周年記念の2015年に"小さな灯"運動をもっと知ってもらいたいという想いを込めて、児童養護施設の子どもたちから"小さな灯"運動のイメージキャラクターとその愛称募集を行いました。25施設から227点もの応募があり、どれも子どもたちの想いが詰まっているので選考は難航しました。NPO法人こどもデザイン教室と"小さな灯"運動事務局で審査のうえ一次選考で6点に絞り、そのなかからグループ従業員の投票によって選ばれたのが「ほむテン」です。

ガスの炎(ほむら)の天使をイメージしたもので、最終的に"小さな灯"運動の象徴でもあるすずらんの花を手に持っているデザインに決まりました。

ほむテンは"小さな灯"運動のマスコットキャラクターとして、ポスターやかばん、シールなどに起用しました。

#### - その他の子ども支援



こどもあったかクリスマス



児童養護施設の子どもたちへのお菓子寄贈



(写真左上から) ブックリサイクルコーナー、御堂筋チャリティバザー、御堂筋ふれあいバザー 御堂筋ふれあいバザー、(中央右2枚)東北復興支援バザー ふれあいバザー in フラムテラス、障がい者による原画展、ふれあいバザー with 大阪マラソン



#### 障がい者の就労支援・御堂筋バザーのあゆみ

"小さな灯"運動では障がい者支援を一歩進めて、募金だけでなく、自立できる社会をともに作っていこうという想いをもって、障がい者の自立を支援していく活動を行っています。その一つが御堂筋ふれあいバザーで、障がい者の就労支援につながる授産品の販売を継続して行っています。





#### ふれあいバザーの開始

"小さな灯"運動の事業の一環として、福祉作業所の就労支援につながる御堂筋ふれあいバザーを年4回延べ16日間開催しています。人通りが多い御堂筋に面した大阪ガス本社ガスビル前で、より多くの作業所の方々に授産品の販売機会を提供することで障がい者の自立を支援するという想いが基本となっています。

御堂筋チャリティバザーは1986年より開催してきました。当初は、グループ会社の衣料・日用品・花などの物品販売、従業員が持ち寄った本のリサイクル販売などを行い、収益金からボランティア資金に充当していましたが、2000年にはじめて3団体の福祉作業所が参加して授産品などを販売し、バザーで障がい者の就労支援につなげたいという想いを実現しました。2004年には参加する作業所を増やすことができ、作業所での取り組み内容の紹介など障がい者への理解を深めてほしいとの想いでパネル展示も行いました。

現在、出店団体は約60団体にまで増え、福祉作業所だけでなく、循環型社会を目指したチャリティショップ、世界の子ども達を支援する国際協力活動、動物愛護、がん啓発などの社会課題解決に向けた活動に取り組んでいる新しい団体も参加しています。





#### 初期の御堂筋チャリティバザー

1983年の古書チャリティバザーは「ガスビル50周年感謝フェアⅡ」の催しとして、初めて御堂筋に面した大阪ガス本社ガスビル東側で青空バザーとして開催しました。それまでは社内会議室での開催のためほとんどの売り上げが従業員からのものだったのですが、御堂筋で開催することで一般のお客さまにも協力していただくことができました。その結果"小さな灯"運動が多くの人に知られることになり、その後バザーを御堂筋で行うことが定着することになりました。

"小さな灯"運動としてこの古書チャリティバザーは"小さな灯" 運動の募金活動として大きな意味があったのですが、それだけ ではなくより一歩進んだ活動ができないかと企画したのが 1986年の「御堂筋チャリティバザー」でした。古書中心のバ ザーを福祉作業所の団体が作ったパンやクッキーの販売も行う ものに変更しました。"小さな灯"運動の想いをさらに進めて実 現したものでした。

最初はこういう場所で販売したことのない福祉作業所の方もお客さまとのやりとりを重ねていくうちに楽しいと言ってもらえたことが、"小さな灯"運動をやっていてよかったと思える瞬間になりました。





#### 当初のチャリティバザー

"小さな灯"運動としてバザーを最初に行ったのは1981年10 月でした。それまでも大阪ガス各事業所単位ではそれぞれチャリティバザーを開催していましたが、"小さな灯"運動事務局発足をきっかけに全社で一元化しました。

第一回は大阪ガス本社ガスビル1階の会議室にグループ従業員が古書を持ち寄り「古書チャリティバザー」を開催しました。社員ボランティア20人も会場の設営や本の整理、販売などを手伝いました。この手作りの古書バザーは大盛況で、集まった5,700冊の古書は、当初予定の4日間を待たず3日間で完売となりました。この売り上げは"小さな灯"基金として年末に他の募金と一緒に福祉作業所に寄託しました。"小さな灯"運動が始まったばかりの活動で、その想いが大阪ガスグループ従業員に広く行き渡ったことで"小さな灯"運動のその後の活動への道しるべとなりました。





#### コラム

フリーダム創生 **西村 謙さん** 

御堂筋チャリティバザーに初めて参加したときは、福祉施 設として出店していたのは私たちフリーダム創生だけでし た。隣に古書やオージー産業さんの販売コーナーがまだ あった時代です。当時御堂筋で販売するのは初めてで、こ んなに売れるとは想像もしていませんでした。たくさんの 方々が自分たちの商品を手に取ってくださることをとて もうれしく感じたことを覚えています。同行した障がい者 の人も最初は戸惑っていたようですが、販売しているうち にお客さまと話もできるようになり、ここで販売すること を楽しみにし、喜んでくれるようになりました。その他、障 がい者の描いた絵の原画展にも出展させていただきまし た。障がい者のみなさんも自分たちの絵が、大阪ガスのフ ラムテラス内で飾られているということがうれしかったよ うです。私たちは障がい者を区別したりはしていなくて、 それがあたりまえのこととして根付いています。みんな同 じく「自分たちができることをやる」ということを大切にし ています。





#### 2013年~2014年 イルミネーションバザー

新しいバザーの試みとして、12月の夕方から夜の時間帯に御堂筋のイルミネーションに合わせたバザーを開催したこともありました。御堂筋の活性化・まちづくりのために実施されている「大阪・光の饗宴」と連携して企画したものです。寒い時期なので今までのバザーにない温かい食べ物や飲み物を提供できる福祉作業所を探すことから始めなければなりませんでした。快く出店協力していただける団体はありましたが飲食を伴う販売につき消防や保健所への届け出など、今までにない様々な手続きが必要となりました。新しいことを行うには事前準備に時間や手間がかかるということを改めて感じさせられました。





## 2014年 御堂筋賑わい創出事業とともに

御堂筋賑わい創出事業に協力して、これまでの「ふれあいバザー」に上質な賑わいを求められるようになりました。統一感を出す意味で、お揃いのテーブルクロスや専用の屋台を製作し、またガスビルの壁面から吊り旗を設置しました。社内外の関係者に協力を仰いで賑わいを創出するための工夫をこらしました。その他にも専用ポスターを制作するなど様々な備品と周知ツールを一新することで御堂筋に賑わい感をもたらし、出店団体からも大変好評でした。このときに経験したことがその後のバザーの拡がりにつながりました。



#### コラム

あゆみ工房 **原 幸子さん** 

御堂筋ふれあいバザーに出店することになって初めて旭区を出ての販売なので、最初はドキドキでした。それまでは地元ということで本格的という訳ではなかったのですが、失礼にならないようにといろいろ考えて準備しました。 ふれあいバザーに出店している他の作業所の方とも知り合いになり、いろいろな出会いがあって本当にありがたかったです。また、活動が大きくなるきっかけにもなりました。 その後東北復興支援バザーやハグミュージアム、フラムテラスでのバザー、カタログバザーなどでも声をかけてもらって、ずっとお付き合いできることがありがたいと思っています。ふれあいバザーに参加するようになってクッキー以外にも和菓子やマスクづくりも行うようになりました。また、人と接するのが苦手だった人も販売のときに声をかけ



てもらって楽しかったと言ってくれて、"小さな灯"運動に参加することは、障がいを持った方のやりがいになるのでよかったと感じています。コロナ禍でも声をかけていただき本当にうれしかったです。これからも同じ想いをもって、ともにずっと何かをできるような存在になりたいと思っています。











#### 2015年~

#### ふれあいバザー in フラムテラス

春と秋に御堂筋で開催する「御堂筋ふれあいバザー」の機会だけでなく、年間を通じてもっとバザーの機会を増やせないかという想いと福祉作業所が真夏や真冬でも販売しやすい場所を検討し、他部署との調整を重ねて大阪ガス本社ガスビル1階フラムテラス内でのバザーが実現しました。昼休みをはさむ2時間の販売で福祉作業所も参加しやすく、お客さまにも立ち寄りやすいものとなりました。1日の出店団体数は少ないですが、継続することが定着につながると考え実施しています。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、御堂筋での対面販売ができなくなったときにも、このフラムテラスバザーを継続していたことで感染予防措置を取りながら販売の機会を提供することができました。



#### 2016年~

#### ふれあいバザー with 大阪マラソン (ハグミュージアム前)

イルミネーションバザーで新しい商品を考え、御堂筋賑い創出事業で屋台などを製作したことが、次の新しい企画を実施するための貴重な経験となり、大阪マラソンの沿道でふれあいバザーを行うという発想につながりました。バザーをできるだけ幅広くいろいろな場所で行うことで"小さな灯"運動の活動として役に立ちたいという想いが後押しとなりました。



#### 2016年~

#### ふれあいバザー in ガスてん会場

バザーの販売機会として、毎年多くの人が集まるガスてん会場で行うことができないかと考えたのですが、ガスてんでは金銭の授受ができないという事情がありました。しかし、何とかできないかと社内関係部署と調整をして、ディリパ奈良やハグミュージアムなど一部のガスてん会場でチャリティカレンダー募金と共に出展ブースを確保できました。「できない理由ではなく、何ができるかを考えよう」というのが"小さな灯"運動の考え方の原点で、できる方法を模索したことが実現につながりました。



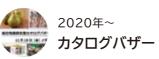
#### 2017年

#### 御堂筋80周年記念バザー

御堂筋まちづくりネットワークの御堂筋完成80周年記念事業に協力してバザーを開催し、80周年にちなんだマグカップやシール、クッキーなどのオリジナル製品を福祉作業所に製作依頼しました。福祉作業所の方々には初めてオーダーメイド仕様に関して相談したにも関わらず、快く協力いただきました。継続した関係性の大切さを感じるとともに、今後の活動の幅が拡がりました。







新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて御堂筋でのふれ あいバザーを開催することが難しくなり、福祉作業所の方々が 販売する機会がないままではいけないと考え、カタログによる ネット販売を企画しました。販売商品も工夫していただき、緊急 時に各家庭内で備蓄可能な食品や雑貨、子ども用の玩具や焼 き菓子、コロナ禍に入って間もなく入手困難だった布マスクや 石鹸などの衛生商品をカタログにまとめて告知しました。対面 販売と違い、商品の構成や見せ方、購入しやすい価格設定、送 料を無料にするための条件設定などについて、何度も打ち合わ せを行ってからの実施となりました。どんな社会情勢になった としても「できることをやっていこう」ということが"小さな灯" 運動に関わる全員の想いなのです。



2020年~ **出張ふれあいバザーの試み** 

大規模なふれあいバザーができない状況が続き、"小さな灯" 運動の活動も制限されるなかで何かできることはないかと考 え、新たな試みも実行しています。

その1つが出張ふれあいバザー。まだまだ試行段階ですが、御堂筋でできないならできる場所を探して出かけられないかと企画しています。大阪市生野区にある市民ボランティアかなう運営のチャリティショップKANAUの協力で現地商店街活性化を目的としたフリースペースを活用して古書バザーを開催しました。



#### 御堂筋 東北復興支援バザー

"小さな灯"運動では、これまでのふれあいバザーの経験を活かし関西から1日も早い復興を願い被災地支援につながる販売活動ができないかと考えていました。そんなときに現地にはまだ商品を販売する場が少ないことを知り、2012年に被災地で作られた商品を関西で販売する場として、東北復興支援バザーを開催することにしました。また被災地の商品を販売するだけでなく、現地の様子を伝えることが一層の理解・支援につながると考えて写真展などを併設しました。可能なら大阪ガス本社ガスビル前の御堂筋沿い全面を使って大々的に呼びかけたいという想いから、ガスビル1階のりそな銀行御堂筋支店に共催を依頼しました。りそな銀行内では初めての試みでもありましたが、社内で検討の結果快く受けていただきました。また同時に開催した「ブックリサイクルコーナー」の設営準備や本の寄贈にも協力いただきました。

バザーの売上金は東北復興に役立てるとともに、「あしなが育英 会」運営の東日本大震災遺児の心のケアセンター「レインボーハ ウス」の建設・運営資金として寄付しました。

りそな銀行御堂筋支店とはそれまで同じ建物内とはいえ特に つながりはなかったのですが、この東北復興支援バザーを機 に、御堂筋ふれあいバザーでも協力いただけるようになりまし た。"小さな灯"運動の想いを共有できたことが大きな成果に つながりました。





その後、熊本地震などの大規模な自然災害が発生していること もあり、被災地のためにという想いで御堂筋 東北復興支援バ ザーは「御堂筋 被災地復興支援バザー」として継続しています。



#### (コラム)

## 市民ボランティア かなう 代表 青木 洋介さん

東日本大震災では(公社)アジア協会アジア友の会として、炊き出しや生活用品配布、地域情報発信など、被災者に寄り添った支援を行いました。その後2012年に南三陸町歌津にて海産物販売直売所「みなさん館」立ち上げに関わり、大阪での販売先を探していました。そんななか大阪ガス"小さな灯"運動が御堂筋で東北復興支援バザーを行う話があり2013年から出店しました。当初は南三陸町の復興支援に関わる場としての出店でしたが、2018年からは身近にできる社会貢献活動「断捨離×社会貢献」の場として"小さな灯"運動に協力いただきました。不要になった衣類や鞄などを寄付品として集めて販売し、その収益金を"小さな灯"運動や国際協力の活動に寄付するものです。2019年には寄付品受付BOXを大阪ガス本社ガスビル1階に常設し、バザー開催時以外でも多くの人が循環型



社会に参加できるようになりました。新型コロナウイルス感染拡大でバザーが開催されない場合でも、家の片づけをすることで社会貢献にも参加できるこの取り組みに共感してDaigasグループ従業員だけでなく一般のお客さまからも寄付品BOXへの持ち込みの問い合わせが増えているのを感じています。



#### コラム

#### りそな銀行 **土井 和彦さん**

大阪ガスの"小さな灯"運動の担当者の方が東北復興支援 バザーの共催のお願いに来られたのが最初でした。ちょう どその当時社内でも"小さな灯"運動のような活動をした いと考えていましたが、いざ実現までにはいろいろなこと を乗り越えなければなりませんでした。まず他社と共催の 実績が全くなく、社員全員を業務時間外に巻き込むこと になるので社内の了解を得なければなりませんでした。そ のために活動の意義を伝えていくのが大変でした。また 活動予算をどうするか決める必要もあり、さらに本部に 内容を伝えて了解を得ることも必要でした。

しかし、もともとそういう活動をしていきたい気持ちはありつつも、なかなかそういう機会を見つけられなかったところに、この話をいただきました。社員にも「仕事が忙しくても自分たちも何かをやりたい」と思っている人が多いことがわかりました。社員全員を巻き込むことになったのですが、最終的にみんな気持ちよく動いてくれたことに本当に感謝しています。"小さな灯"運動のような活動がした



いと、りそなグループに「Re:Heart倶楽部」ができ、今ではいろいろな活動を行っています。今でもずっと前を歩んでいる"小さな灯"運動の背中を見ながら目標にさせていただいています。

始めてみると、やり続けるということの難しさや活動の意 義を伝えていくことの大変さがわかりました。これからも 始めたときの想いを伝えて参加する人を増やしてずっと この活動を継続していきたいと思っています。





#### 硬式野球部の使用済みバットを SDGsバッジに再生

2019年より、"小さな灯"運動では大阪ガス硬式野球部の使用済みバットをSDGsバッジに再生する取り組みを行っています。ただ単に折れたバットからSDGsバッジを作るのではなく、木工のできる福祉作業所がないか全国から探し、御堂筋ふれあいバザーなどでつながりのある認定NPO法人トゥギャザーの紹介で北海道の胆振東部地震被災地にある「就労継続支援事業所さるがわ」に製作を依頼しました。"小さな灯"運動では障がい者の就労支援につながる活動を続けていますが、この活動は同じ想いを持つ団体との関係づくりの大切さを実感した取り組みとなりました。





#### "小さな灯"運動とSDGs

SDGsとは2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標のことで、"小さな灯"運動でも地域社会の発展を目指してSDGsに取り組んでいます。誰もが幸せに暮らせる社会をめざすということは"小さな灯"運動の想いとも共通するからです。地道な活動ですが継続することにより、"小さな灯"運動の想いがDaigasグループの取り組みとともに社会に届くことを願ってこれからも活動を続けていきます。





#### コラム

#### **まじまるくん**

グループ企業のオージス総研が2009年から行っている「はじまるくん」にも"小さな灯"運動は協力をしています。「はじまるくん」は最初置き換えで業務使用を終えたパソコンをリユースできないかということから活動が始まりました。再生作業の一部を福祉作業所に依頼することで障がい者の就労支援につなげたいという想いがあり、さらに再生されたパソコンを福祉施設やNPOに寄贈することでIT支援にもなり、使用済みのパソコンを提供する企業にとっては環境貢献にもなります。"小さな灯"運動ではたくさんの想いがつながって実現したこの取り組みをきっかけとして、社会福祉法人ぷろぼのと協力して障がい者がモニターを見ながら遠隔でロボットを操作してイベント案内をするなどの就労支援につなげています。"小さな灯"運動はこの「はじまるくん」をはじめ、障がいを持った方々の就労支援につながる活動を続けていきます。





(写真上3枚)阪神淡路大震災、 (中央左2枚)東日本大震災、(中央右)福知山水害、 (下左から)熊本地震、広島豪雨災害、台風19号災害

#### 災害被災地支援のあゆみ

大規模災害が発生した際には、"小さな灯"運動では義援金の募集を行うとともに、現地でのボランティア活動を通じて被災地の支援を行っています。現地の情報を的確に把握し求められている支援を行うためには、災害ボランティアセンターや地域の社会福祉協議会とつながりのある大阪ボランティア協会の協力が必要不可欠です。ともに被災地のために何ができるかを考え活動を続けています。











#### 阪神淡路大震災

1995年1月17日、阪神淡路大震災が起こりました。大阪ガスではガスの供給の復旧作業に社員一丸となって取り組みました。 復旧作業で現地に入ると大変な状態になっており、復旧と同時にさまざまな支援が必要だとわかりました。

"小さな灯"運動では自分たちにできるボランティア活動は何かと考え、少しでも早く実行することが大切だと感じたのです。

1月19日には、緊急避難所となっている西宮市立体育館にてボランティアに何をしてほしいのかを聞かせてもらいました。それを受けて翌日1月20日にはボランティア33人が合計1,100個のおにぎりをつくって体育館へ持参し、また同じ日に神戸三宮や元町の緊急避難所へもお菓子や医薬品を届けました。

何が今いちばん必要なのか、被災者の方々は何を望んでいるのかを考えて、自分たちがいますぐにできることを届けたいという想いで行動しました。

その後1月21日には大阪ボランティア協会と連携して動けるようになり、23日には大阪ガス労働組合と"小さな灯"運動が義援金の募集を開始しました。

さらに24日には被災者の方々に温かいものを食べてほしいとの想いから、現地で豚汁の炊き出しを行うボランティア活動TONVOを始動し、合計26回34,000食、のべ520人のボランティアが参加して2月28日まで継続して実施しました。

また仮設シャワー応援隊が結成された際の運営に協力して、合計9万人に利用いただき、のベ450人のボランティアが参加しました。お風呂に入りたいという被災者の方々の想いに応えたものです。また被災者のためにと多くの企業から届いた支援の想いがつまった花や野菜、しょうが湯などを避難所や福祉施設へ届け、社内外から集まったカレンダーや手帳15,000部も避難所や仮設シャワー受付で配りました。小さなことでも自分たちにできることは何かを考え、多くのボランティアの協力があってできたことでした。

その後5月29日には阪神淡路大震災復興支援トーク&報道写真&児童画展「がれき、乗り越えて」を大阪ガス本社ガスビル3 階ホールで開催。さらに本社ガスビル1階で報道写真パネル展「阪神大震災の子どもたち」を開催し、引き続き生活誕生館 DILIPAやディリパ京都、奈良支社へも巡回して支援活動を続けました。











#### 福井沖タンカー重油流出事故

1997年1月2日に日本海で発生したロシア船籍のタンカー、ナホトカ号の重油流出事故に対して、大阪ガス労働組合と"小さな灯"運動では流出重油回収ボランティアを募集し、1月27日~3月14日に合計10回、のべ231人のボランティアが参加して重油除去・回収作業を行いました。またボランティアに先立ち、1月14日、15日にはタオル600枚、軍手600枚、ハンドウォーマー250個を現地へ送り、さらに"小さな灯"基金から義援金も届けました。ボランティアのメンバーは「この美しい環境を守らないといけない」との想いで、厳寒と悪臭のなか予想以上の難作業に取り組みました。



#### 東日本大震災

2011年3月11日、東日本を地震と津波が襲いました。"小さな 灯"運動では大阪ガス労働組合と協力してすぐに義援金の募集 を開始しました。また現地でのボランティア活動にも"小さな 灯"運動事務局長はじめ3名が、現地では何が必要かを確かめ るために、大阪ボランティア協会で企画された最初の相乗りボ ランティアバスでいち早く仙台へ駆けつけました。主な活動は 泥のかき出し、家屋の清掃、瓦礫の撤去などで東松島市災害ボ ランティアセンターに入ってくる地域からの要望に合わせて活 動するものでした。倒壊するかもしれない家の床下に潜っての 泥や瓦礫のかき出しは予想を超えた作業でまたたくまに泥だら けになりました。"小さな灯"運動ではその後も気仙沼市での活 動を中心にグループ内でボランティアを募集し、その後も合計 7回12月までのベ42人が参加しました。



#### 台風12号(和歌山、奈良)

台風12号の豪雨で2011年9月に発生した和歌山県と奈良県の土砂災害の被災者に対して、"小さな灯"運動では義援金を送るとともに、9月23日から10月22日までの合計6回、のべ15人のボランティアが参加して、被災地の泥かきや瓦礫の撤去、家屋の清掃などを行いました。また11月には硬式野球部も新宮市を訪問し、倉庫の整理、清掃のボランティアと野球教室で現地の子どもたちに元気を届けました。



#### 熊本地震

2016年4月14日・16日に発生した熊本地震には"小さな灯" 運動で義援金の募集を行い、その後も被災者を支援したいとの 想いから10人のボランティアが参加して、7月16日には益城 町での家具の組み立て作業を、7月17日には菊池町の農家の 椎茸原木を立て起こす作業を行いました。

#### 従業員のボランティア活動支援





#### 広島豪雨災害

2018年7月に広島を襲った豪雨災害に対しても"小さな灯"運動ではグループ従業員に対してボランティアを募集し、10人が参加しました。9月8~9日に他企業の方々と協力して、復興支援のためにお寺の片づけ、清掃、足湯、マッサージ、家屋の土砂かき出し、生活物資の搬入や仕分けの作業を行いました。





#### 台風19号(福島県)

2019年10月に東日本を襲った台風19号の被災者支援のために、"小さな灯"運動から11月22日~24日と12月13日~15日の2回にわたり福島県いわき市にのべ6人のボランティアが参加して、家屋の片づけや清掃、家具の運び出しなどの被災者の支援を行いました。現地集合にもかかわらず、被災地のためにグループ従業員の方々が駆けつけました。



#### 大

大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長 **永井 美佳さん** 

"小さな灯"運動とご一緒した活動で忘れられないのは被災地支援活動です。2011年の東日本大震災・紀伊半島豪雨、2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨、2019年の台風19号等で被災地へ向けて走らせた「あいのりボランティアバス」に、Daigasグループ従業員に参加いただきました。また、広域避難者家族に関西を知っていただく「おもてなしプロジェクト」や、震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI」の開催もご支援いただき心より



感謝しています。大規模災害のない未来を願いつつも、い ざというときは、社会貢献マインドあふれる皆さんと被災 者に寄り添う活動を丁寧に展開できればと思います。



#### コラム

## まるっと西日本 古部 真由美さん

2011年に東日本大震災で関西へ県外避難をした人たちに支援情報を届け、生活の復興のための相談ダイヤルを開設しています。現在でも1,100世帯2,000人ほどの県外避難者がいます。そんなところに"小さな灯"運動から「ともしびこども劇場」や「淀川花火大会」への招待をいただきました。自然災害や原発事故を体験すると、ほとんどの人が娯楽や外出への意欲を失います。関西に知り合いもいない避難者にとって娯楽の機会や「招待される」ことは本当にうれしいことです。最近も"小さな灯"運動からプレゼントが届き、3.11の黙とう後に手渡しました。「今でも応援してくれるんだね」と大喜びでした。被災者支援団体は全国にありますが「今でも支援する企業があるのは大阪だけ」と言われます。歴史があるからできるのかなと思



います。災害で家や仕事、健康を喪失した人たちの生活再建は、ゴールの見えないマラソンのようなものです。支援を受けることは「ずっと応援しているよ」というメッセージを受け取ることでもあり、再建が道半ばの避難者の励みになっています。継続してつながることが大切なのです。今でもずっと支援を続けられる"小さな灯"運動には本当に感謝しています。





子どもたちとの凧づくり、セミナー「車椅子に乗ってみると」、クリスマスプレゼントクッキーづくり、 コンサート受付ボランティア、点字サークル課題図書づくり、「介助犬シンシア」チャリティ講座、 マラソンボランティア、お菓子づくりボランティア、御堂筋クリーンUP大作戦



#### 従業員のボランティア活動支援

"小さな灯"運動は従業員のボランティア活動を支援するという趣旨で始まりました。"小さな灯"運動事務局では従業員にイベントやセミナー、募金の情報を伝えてボランティアを希望する人に機会を用意しています。





#### お菓子づくりボランティア

1981年12月には児童養護施設の子どもたちへの「クリスマスクッキーづくり」を実施し、各所属から約100人のボランティアが参加して、料理講習室の講師もボランティアで指導しながらクッキー500人分をつくりました。このクッキーは5つの施設へプレゼントとして届けました。さらに七夕プレゼントも1994年から開始し、51人のボランティアが参加して200人分を作りました。また2020年には新型コロナウイルス感染拡大の影響により手づくりのものが届けられなくなり、それでも何かしたいという想いから福祉作業所による手づくりの焼き菓子を届けました。





#### 点字サークル「ともしび」

"小さな灯"運動では1981年10月にガス安全使用点字パンフレット、弱視者用パンフレット、PRカセットテープを制作して施設へ届けました。これに合わせて11月に4回の「点字講習会」を開催しました。点字の初級講習会でしたが、社員74人が参加しました。さらにもう少し進んだ内容をと希望する社員のために12月に2回の中級講習会を開催し、41人の参加がありました。"小さな灯"運動事務局では啓蒙活動の講習会を通じて、ボランティア技能習得を支援するものでした。その後中級受講者が中心になって「今後も続けよう」という想いを持つ社員25人で1982年2月に点字サークル「ともしび」が発足しました。「ともしび」では、民話(日本昔ばなし)や料理本(大阪ガス発行のターブル・ドゥ・シェフ)、カレンダーなどの点訳を行ない、1982年12月から大阪市立盲学校(当時)へ寄贈しました。





#### | 手話サークル「テーブルクロス」

1982年4月から毎週水曜日の計5回、"小さな灯"運動では啓蒙活動として手話講習会を開催し、61人が参加しました。また1982年6月には講習会修了者の話し合いで手話サークル「テーブルクロス」が誕生しました。さらに翌年1983年6月にも毎週水曜日の計5回手話講習を行い、41人が参加しました。その後「テーブルクロス」が中心となって、1992年5月~7月には外部講師を招いた初級手話講習会10回コースを行い、57人が受講しました。





#### ボランティアを行なう 従業員のための制度

"小さな灯"運動事務局が1991年7月1日人事部内に発足したいきいき市民推進室に移管となった10月には社員のボランティア活動を推進するための制度が誕生しました。これによって社員がボランティアに参加しやすくなり、 "小さな灯"運動でも積極的に社員のボランティア活動の支援を行なっていくための会社のバックアップ態勢が整いました。

#### ●ボランティア休業制度(長期休業支援)

原則1ヵ月以上1年以下(青年海外協力隊の活動に参加する場合は2年4ヵ月以下)の期間、会社が認めたボランティア活動や社会貢献活動を目的とする活動に参加するための休業制度です。

#### ●コミュニティ休暇制度(短期休業支援)

特別休暇年間最大5日と保存有給休暇年間最大5日の合計10日以内の会社が認めたボランティア活動や地域活動などに参加するために休暇を取得する制度です。





#### ●コミュニティギフト制度(資金支援)

Daigasグループの従業員または従業員の家族が所属しているさまざまな人々がいきいきと活動できる社会や地域づくりをめざして社会貢献活動に取り組む団体に対し、申請者を通じて活動資金を援助する制度です。





#### 🦠 チャリティコンサート

チャリティコンサートは1986年11月2日に大阪ガスのマンドリンクラブがザ・シンフォニーホールで行われた「ギター・マンドリン・チャリティコンサート」に出演した際に、"小さな灯"運動で盲学校の生徒たち100人を招待して実施したのが最初です。

このときにはボランティア10人が参加して座席への案内などを 行なったほか、点字サークル「ともしび」で制作した招待券と点 字版プログラムも準備をして、「美しい音楽を楽しんでほしい」と いう想いが実現できました。

その後1988年からはマンドリンクラブと合唱部による「フォスタープラン協賛チャリティコンサート」の開催や、1993年からの世界的バイオリニスト五嶋みどりさんによる「五嶋みどりレクチャーコンサート」と1997年からの「五嶋みどりウィークエンドコンサート」に"小さな灯"運動は協力をしています。1994年からは音楽系クラブネットワーク「そよかぜ」による「そよかぜチャリティコンサート」、1995年からは吹奏楽部・軽音楽部による「チャリティコンサート」にも児童養護施設の子どもたちや盲学校の生徒たちを招待しています。これらのチャリティイベントには従業員ボランティアが協力して、子どもたちに音楽を通して「夢と楽しさを届けたい」という想いを実現できました。







#### 募金活動「チャリティカレンダー募金」

"小さな灯"運動は"小さな灯"基金を原資に活動を行っています。ボランティア活動が会社の経営に左右されることなく、継続して活動に取り組めるようにと会社から独立させました。

"小さな灯"基金は、募金活動やふれあいバザー、チャリティコン サートなどの収益金から成り立っているのですが、そのなかで も最も大きな割合を占めているのがチャリティカレンダー募金 です。

一口300円の募金に協力した従業員にカレンダーを進呈し、集まった募金を地域社会に役立てている「チャリティカレンダー募金」。この活動が始まったのは1977年のことです。前年のガスてん会場でお客さまにご協力をお願いしたものが「従業員も自主的に参加しよう」との声の高まりを受け、グループ従業員による活動に発展しました。集まった募金はガスてん会場分も合わせて各地の行政の福祉課や社会福祉団体などに寄贈しました。カレンダーのテーマやデザインは毎年変わりますが、地域社会のお役に立ちたいという想いは当時から変わりません。グループ従業員をはじめ、OB、その他関係先、お客さまなど、長年多くの方々にご協力をいただいています。

東日本大震災以降は、通常の募金額に災害被災地支援金(100円)を加えた400円で協力を呼びかけました。その後、2017年チャリティカレンダー募金からは、自治体への物品寄贈や毎年発生する自然災害への支援を行うことから、一口の募金額を500円にしました。皆さまから寄せられた善意は、主に以下の3つの活動費として使わせていただいています。

- ①自治体への物品寄贈(社会福祉・教育等の行政目的で使用される物品購入資金)
- ②新型コロナウイルス感染症関連の支援募金や、自然災害で被 災された地域を応援する団体への活動費として寄贈
- ③Daigasグループ"小さな灯"運動の活動資金





#### 献血活動

2012年からは"小さな灯"運動で従業員ボランティアとしての献血活動の支援を行なっています。大阪府赤十字血液センターの要請に応え、大阪ガス本社ガスビル3階ホールにて年2回実施しています。その際に2018年からは障がい者就労支援として「革靴をはいた猫」のスタッフに協力いただいて献血の待ち時間の間を利用した出張靴磨きサービスを提供しています。さらに同年から骨髄バンクドナー登録の受付も始めました。従業員のボランティア支援としてできることがあったら、少しでもその機会を提供していきたいという想いから実現したものです。







#### 自治体寄贈

"小さな灯"運動では地域の福祉に役立ててもらうために、活動開始当初から継続して地域の福祉活動に寄贈を行ってきましたが、各地区で集めた募金はその地区の運用としていたため、"小さな灯"運動全体としての基準はありませんでした。

"小さな灯"運動事務局では、"小さな灯"基金に集まった募金はお客さまや従業員、協力会社からの大切な想いが詰まっているものだということを受け止め、2016年度に全社としての基準をつくり、"小さな灯"基金は、"小さな灯"運動事務局での一元管理としました。これにより、2017年チャリティカレンダー募金による自治体への物品寄贈が始まりました。大阪ガスネットワークカンパニーの供給エリア内全自治体に対し上限金額の基準を設け、希望の品物で寄贈を行うということにしました。

"小さな灯"運動に募金をしたお客さまや従業員の想いが、大阪ガスネットワークカンパニーの供給エリア全てに届くようになったのです。2019年度にはDaigasグループに自治体寄贈の制度を拡大しました。寄贈品には"小さな灯"運動のシールを貼付し、毎年継続して社会福祉や教育などの行政目的で使用される必要な物品を寄贈することで、少しずつでも地域のためになればとの想いで今後も継続していきます。





#### ソーシャルデザインフォーラムの開催

2011年からDaigasグループ従業員を対象として、ソーシャルデザインフォーラムを開催しています。関西で活躍するNPOや社会起業家の方々の活動に対する想いやその取り組みを紹介するものです。社会のさまざまな課題や問題に関して、その解決策を作り出して行くという発想を従業員全体に広げ、創造的に問題解決に取り組む姿勢を伝えていきたいという想いで、毎年継続しています。





#### チャイケモウォークへの協力活動

"小さな灯"運動では、2013年からNPO法人チャイルド・ケモ・ハウス主催の「チャイケモウォーク」の趣旨に賛同してボランティアとしてウォーキングイベントに協力しています。「がんになっても笑顔で育つ!」というスローガンのように小児がんの子どもと家族を応援したい想いで継続しています。





#### 癒しの音楽シリーズ

"小さな灯"運動では1998年から2019年まで地域の皆さまに心安らぐひとときを提供したいという想いで、従業員ボランティアが協力して、大阪ガス本社ガスビル3階ホールでチャリティ音楽会「癒しの音楽シリーズ」を開催しました。若手音楽家に発表の場を作りたいという想いとともに、参加費を無料にして来場の方々に会場募金に協力いただき、集った募金を社会課題の解決に取り組む団体へ寄付して活動に役立てました。20年間68回続いたこの音楽会には、のべ17,000人が参加しました。



#### ( コラム



チャリティーコンサート"癒しの音楽"は、演奏者も会場に来られた方も実に楽しそうにされていて、その暖かいお気持ちとご支援は、遺児たちも目に見えない形できっと感じ取っていたのだろうと思います。また、遺児の心のケアの場所・神戸レインボーハウスや東北レインボーハウスにご寄付を賜りまして厚く御礼申し上げます。これからも運動がご発展されることをお祈りしています。





#### 環境啓発・森林保全活動 「大阪ガスの森」

大阪ガスでは従業員の環境保全意識を高める活動の一環として、2005年から10年間、和歌山県の森林環境保全活動「企業の森」の理念に賛同して田辺市中辺路町で「大阪ガスの森」事業に取り組みました。中辺路町森林組合と協力して環境保全を目的とした広葉樹の植樹や下草刈りなどの育林を行うもので、"小さな灯"運動では大阪ガス労働組合と共同でボランティアを募り、この活動に参加しました。



#### (コラム)

"小さな灯"運動 元事務局 中村 好作さん

私は1993年より約20年間事務局の一員として担当させていただきました。当時は福祉的な活動が中心でしたが、現在では見直しされ、SNSなどを使って新しい時代に合った活動も取り入れられています。40年も続いたことは、グループ会社、従業員、OB会のすずらん会、他企業や団体の支援、協力があったことや目先の効果・利益によって事務局が無くなることがなかったからと思っています。これからもスタートしたときの理念を大切にしつつ、コツコツと末永く続きますよう願っています。







#### 高齢者支援

大阪ガスでは業務の一環として独居の高齢者にガス設備特別 安全点検を行うなど、高齢者宅に安全のプレゼントをという趣 旨で活動を行ってきた歴史がありました。そうした歴史を踏ま えて"小さな灯"運動でも当初は高齢者の支援活動に力を入れ ていました。高齢者支援で行った最初の活動は、1982年11月 のゲートボール大会でした。大阪府老人クラブ連合会の200人 が集まった大会にボランティア募集で24人が参加して開催し ました。この大会は1983年にすずらん杯ゲートボール大会と なり、2002年まで継続しました。NPO法人高齢者外出介助の 会に協力して外出介助のお手伝いにボランティアを募った時期 もあります。

高齢者支援の活動は、1985年10月に設立した財団法人大阪 ガスグループ福祉財団へ役割を移すことで"小さな灯"運動とし ての活動は軸足を他の分野に向けることになりました。







#### 国際交流支援

"小さな灯"運動の国際交流支援は、最初海外への募金という形で進めていました。1984年の「アフリカへ毛布を」救援チャリティ募金、1985年のアルジェリア難民に大阪ガスの旧制服を贈る活動をはじめ、ソマリア、ルワンダ、ウガンダ、ガーナなどアフリカ諸国の難民や子どもたちに対してアフリカ救援募金を実施しました。また1993年12月にはカレンダーを世界友の会関西本部を通じて世界の子どもたちへプレゼントしました。その他1994年7月の「チェルノブイリの子どもたちに文房具を」、10月の「ベトナムの子どもたちに絵本を」などアフリカ以外の国への支援も行いました。

"小さな灯"運動の国際交流支援は、1992年9月に設立した財団法人大阪ガス国際交流財団へ役割を移していきました。

( )内の数字は本誌掲載ページ、★は現在継続中

小\
<del>*</del>
な
灯
運
動
全
体
関
連

1977年	「小さな"灯"から」発行開始(p5、p6)	S 344
	「すずらん賞」創設(p5)	
	チャリティカレンダー募金開始★(p27)	-Ac
1979年	地域社会貢献表彰創設★(p5)	202
1981年	"小さな灯"運動事務局発足★(p6)	大阪ルイ
	"小さな灯"基金開設★(p6、p27)	
	"小さな灯"運動ロゴマーク制定★(p2)	チャリティカレン
	"小さな灯"運動チャリティカレンダー募金開始★(p27)	
2011年	ソーシャルデザインフォーラム(旧 社会貢献フォーラム)開始★(p28)	
2019年	第17回企業フィランソロピー賞「つなぐ灯(ともしび)賞」受賞(p37)	

子		
ŧ		
支		
及	-	

1981年	「ポートピア'81への招待」(p7)
1987年	ともしびこども劇場開始★(p8)
2006年	子ども支援市民活動助成プログラム(25周年)実施(p9)
2007年	ともしびこどもクッキング開始★(p10)
2011年	子ども支援市民活動助成プログラム(30周年)実施(p9)
2013年	チャイケモウォーク開始★(p28)
2015年	ほむテン誕生★(p11)
2017年	「あつまれ!ピッコロひろば」開始(p9)

1981年 古書チャリティバザー開始(p13)



子ども支援市民活動助成プログラム

# 障がい者支援・御堂筋バザ

1983年	御堂筋にて古書チャリティバザー開始(p14)
1986年	御堂筋チャリティバザー開始(p13、p14)
2000年	御堂筋ふれあいバザー開始★(p13)
2009年	オージス総研の「はじまるくん」に協力★(p19)
2012年	御堂筋 東北復興支援バザー開始★(p18)
2013年	イルミネーションバザー開催(p15)
2014年	御堂筋賑わい創出事業に協賛してバザー開催(p15)
2015年	ふれあいバザー in フラムテラス開始★(p16)
2016年	ふれあいバザー with 大阪マラソン開始★(p16)
	ふれあいバザー in ガスてん会場開始★(p16)
2017年	御堂筋80周年記念バザー開催(p16)
2019年	使用済みバットからSDGsバッジ制作★(p19)
2020年	カタログバザー開始★(p17)
	出張ふれあいバザー試行★(p17)



「介助犬シンシア」チャリティ講座



SDGsバッジ制作

1995年	阪神淡路大震災被災者支援(p21)
1997年	福井沖タンカー重油流出事故被災者支援(p22)
2011年	東日本大震災被災者支援(p22)
	台風12号被災者支援(p22)
2016年	熊本地震被災者支援(p22)
2018年	広島豪雨災害被災者支援(p23)
2019年	台風19号被災者支援(p23)



阪神淡路大震災 豚汁ボランティアTONVO

# 従業員のボランティア支援

1981年	ガス安全使用点字パンフレットほか制作開始(p25)
	点字講習会開始(p25)
	クリスマス手づくりクッキープレゼント開始★(p25)

1982年 点字サークル「ともしび」発足(p25)

手話講習会開始(p25)

手話サークル「テーブルクロス」発足★(p25)

1986年 チャリティコンサート開始★(p26)

1988年 フォスタープラン協賛チャリティコンサート開始(p26)

1991年 いきいき市民推進室開設(p26)

ボランティア休業制度ほか制定★(p26)

1993年 五嶋みどりレクチャーコンサート開始(p26)

1994年 そよかぜチャリティコンサート開始(p26)

七夕手づくりバターケーキプレゼント開始★(p25)

1995年 吹奏楽部・軽音楽部「チャリティコンサート」開始(p26)

2012年 献血活動開始★(p27)

2017年 チャリティカレンダー募金による自治体への物品寄贈開始★(p28)



手づくりお菓子の寄贈



在宅ボランティア活動「手づくりぞうきん」

982年	ゲートボール大会開始(1983年からすずらん杯)(p30)

1984年 アフリカヘ毛布を救援チャリティ募金(p30)

1985年 アルジェリア難民に旧制服を(p30)

1985年 財団法人大阪ガスグループ福祉財団設立★(p30)

1992年 財団法人大阪ガス国際交流財団設立★(p30)

1993年 世界の子どもたちヘカレンダープレゼント(p30)

1994年 チェルノブイリの子どもたちに文房具を(p30)

ベトナムの子どもたちに絵本を(p30)

1998年 癒しの音楽シリーズ開始(p29)

2005年 大阪ガスの森開始(p29)



## ありがとうをつないでくり年



大阪導管部 菊池、谷田



北東部導管部 福井、谷口

地域コミュニティ室



兵庫導管部 岡下、濱本



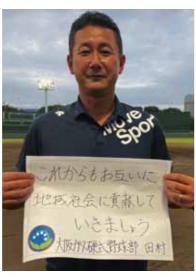
南部導管部 山本、中西、蔵元

京滋導管部 池野 中村



マンドリンクラブ 徳田





硬式野球部 田村



北東部導管部 松澤



人事部 冨田





総務部 葉里



オージス総研 小松、高岡





大阪ガスビジネスクリエイト 南



大阪ガスビジネスクリエイト 那須



京滋導管部 井上



すずらん会ボランティア倶楽部 世話人代表 入江 和廣

2013年7月にキックオフミーティングを開催してスタートした "すずらん会ボランティア倶楽部"は、立ち上げから今日の活動 にいたるまで常に"小さな灯"運動事務局から情報提供を頂く など連携を密にしてきました。お陰様で、会の目的である「会員 各位のセカンドライフの充実・社会貢献」に向けて少しずつ充実 した活動が展開できているようです。地域と共に歩む企業、Da igasグループ内に広く"小さな灯"運動の輪が定着することを 期待します。



"小さな灯"運動事務局OB 川端 誠

1999年から人事部いきいき市民推進室で「花いっぱい運動」 や「ディスカバーマイタウン運動」などの地域に根差した活動に も取り組み、被災地支援、青少年の健全育成、障がい者の自立 支援、環境保全など、幅広い分野に運動を展開しました。また大 阪ガスグループの社会貢献活動の核としてスタートした"小さ な灯"運動は、チャリティカレンダー募金やバザーの売上金、従 業員の募金など、従業員の善意から成り立っています。他に例 を見ないDaigasグループ独自の運動です。今後の運動の発展 をお祈り申し上げます。



子どもデザイン教室さま



大阪西本願寺 常照園さま



フラムテラス内カフェ 「feu feu」さま



積水ハウス ESG経営推進本部さま



災害救援レスキューアシストさま



ありがとう

ございます。

大阪府赤十字血液センターさま







大阪ユニセフ協会さま

福祉心話会さま



住友生命保険 大阪広報センターさま



中央共同募金会さま



大阪授産事業振興センターさま



そうふう会 ふれ愛たかつきさま



トゥギャザーさま

## ありがとうをつないで40年



ぷろぼのさま



革靴をはいた猫さま



ピンクリボン大阪さま



市民公益活動パートナーズさま



ピッコロシアターさま

# 第17回企業フィランソロビー大賞贈呈式 主催: 公益社団法人日本フィランソロビー協会



#### 企業フィランソロピー賞 「つなぐ灯(ともしび)賞」受賞

2019年公益社団法人日本フィランソロピー協会主催の第17 回企業フィランソロピー大賞において、大阪ガスの「Daigasグ ループ"小さな灯"運動の取り組み」が、企業フィランソロピー賞 「つなぐ灯(ともしび)賞」を受賞しました。

同社は、1981年(国際障害者年)より従業員一人ひとりがボラ ンティア活動に取り組むことを推進する「小さな灯」運動をス タート。「小さな灯」基金を設け、従業員、OB・OG、協力会社、 一般市民からの寄付金を積み立て、災害時義援金、福祉、歴史・ 文化、まちづくり、スポーツ、食育など幅広い分野で活用してい る。従業員の参加意識は高く、大学や自治体、市民団体等と連 携して物品寄贈や講習会、チャリティイベントなどを開催し地域 社会との顔の見える関係につながっている。創業時からの「お 役立ち精神」を具現化し、CSRの根幹をなすものとしての地道 で裾野の広い取り組みを高く評価したい。

#### ※ 企業フィランソロピー大賞

社会の課題解決のために、自社の経営資源(人材・ノウハウ・技術・情報な ど)を有機的・持続的に活用した社会貢献活動を顕彰し、広く社会に発信 することにより、公正で温もりと活力ある社会を次世代に伝える一助とし ている。2003年(平成15年)創設。

#### これからも地域社会との対話を絶やさずニーズに応える活動を!





ネットワークカンパニー 事業基盤部 コミュニティ企画チーム マネジャー

#### 中村 博一

Daigasグループ"小さな灯"運動は、私たちの先輩である当時 の従業員たちが「地域社会のために」と、自主的に始めた活動 が元になっていると聞いています。今では社外からも高く評価 いただいているこの活動を、私たちはさらに盛り上げ、地域に 愛される活動として将来へつないでいきたいと考えています。 そのために、地域社会との対話を絶やさず、ニーズに応える活 動を進めてまいります。

また、"小さな灯"運動の想いをDaigasグループ全体に広げ、 従業員の自主的な社会貢献活動を支援することで、グループと しての一体感を高めていきたいと考えています。



編集後記



総務部 管理チーム 中野 伊津子

一つ一つの"あかり"は小さくても、それらがたくさん集まれば、 世を照らす大きな光となる。ずっと受け継がれてきた"小さな 灯"運動のマインドを大切に、ありがとうの想いと共に次の世代 へつないでいきます。



ネットワークカンパニー 事業基盤部 コミュニティ企画チーム

#### 武田 さえみ

こんなにも「ありがとう」と言ってもらえる仕事ができることに 感謝! この40年間の「ありがとう」に恥じないよう、これから も人に寄り添いながら心と心をつなぐパイプラインとして灯し 続けたいと思います。



ネットワークカンパニー 事業基盤部 コミュニティ企画チーム

#### 愛川 賢

"小さな灯"運動40周年を迎えられましたのは、お客さま及び 関係者の方々、OBとグループ従業員の方々にご支援をいただ いた賜物だと感謝しております。今後も、子ども達や障がいの ある人々への理解を一層深めて"灯"続けたいと思います。



ネットワークカンパニー 事業基盤部 コミュニティ企画チーム

#### 長瀬 亜衣

当運動事務局に異動し3年弱の私ですが、本誌作成にあたり、 過去の事を沢山知ることが出来ました。今後も様々な社会課 題に取り組み、"小さな灯"運動の"灯"が消えないよう、これか らも灯の輪が広がっていくよう活動していきます。

最後に、記念誌制作にご協力いただきました皆さまにお礼申し上げます。―――

"小さな灯"運動40年のあゆみ ありがとうをつないで40年

2021年11月発行 発行者 Daigasグループ "小さな灯"運動事務局

大阪市中央区平野町4-1-2 https://www.daigasgroup.com/so/index.html

e-mail:tomoshibi@osakagas.co.jp



※この冊子に掲載している画像の一部は「小さな"灯"から」および「"小さな灯"運動20年のあゆみ」から引用しています。 ※歴史事実を記載する誌面の特性を考慮して、登場人物、団体、会社などに関する敬称は省略させていただいていますことをご了承ください。



